

WORKSHEET

MVP開発 5ステップ ワークシート

仮説設計からリリース後の意思決定まで、穴埋め式で実践できるテンプレート集

Scoop MVP Media | 合同会社Scoop

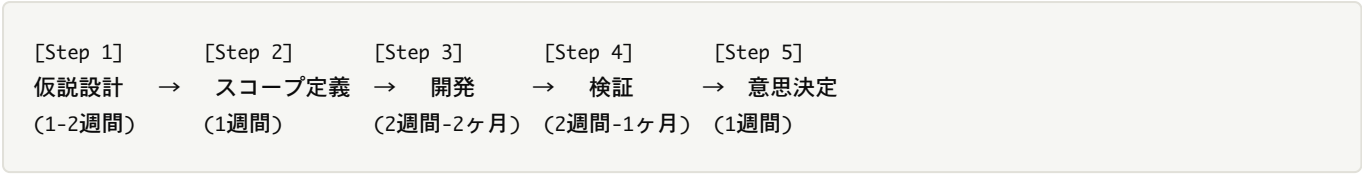
はじめに

このワークシートは、MVP（Minimum Viable Product）開発を成功させるために必要な5つのステップを、**穴埋め式テンプレート**で実践できるよう設計しました。

こんな方におすすめ： - これからMVPを作る予定のスタートアップ - 新規事業の検証フェーズにいる事業部
- MVP開発を発注する前に自社で整理したい方

使い方： 1. 上から順に1ステップずつ埋めていく 2. 1人で記入せず、チームメンバーや顧客候補と一緒に 3. 1周目で完璧を目指さず、何度も書き直す前提で

ステップ全体図



全体期間: 標準2-3ヶ月で1サイクル

Step 1-1. ユーザーペルソナ（1人を書き切る）

項目	記入欄
名前（仮）	_____
年齢	_____
性別	_____
居住地	_____
職業・会社規模	_____
年収	_____
家族構成	_____
1日のタイムスケジュール	_____
現在この課題をどう解決しているか	_____
デジタルリテラシー	_____
よく使うアプリ・サービス	_____



コツ：実在する1人を頭に浮かべて書く。複数人で議論するときは「同じ人物像」を共有できているか確認。

Step 1-2. ジョブ（Job to be Done）

ユーザーが「雇いたい」と思っているジョブを言語化します。

[ペルソナ名] は、
[状況・タイミング] のとき、
[達成したいこと] をしたい。
なぜなら [動機・感情] だから。

記入例：

田中さん（30歳・共働き・1歳児ママ）は、
平日20時に帰宅して家族の夕食を考えると、
30分以内に栄養バランスの取れた食事を用意したい。
なぜなら、自分の手抜きで家族の健康を損ねる罪悪感を消したいから。

あなたのユーザーのジョブ：

[] さんは、
[] のとき、
[] したい。
なぜなら [] だから。

Step 1-3. リーンキャンバス（9マス）

課題（Top 3）	ソリューション	独自の価値提案	圧倒的優位性	顧客セグメント
・	・	（30字以内で言語化）	（他社にマネされない武器）	（誰のための？）
・	・			
・	・			
既存の代替手段	主要指標（KPI）	ハイレベルコンセプト	チャネル	アーリーアダプター
・	・	（〇〇の××版）	（どう届ける？）	（最初の100人）
コスト構造			収益の流れ	
開発費 / 運用費 / 人件費 / マーケ費			サブスク / 売り切り / 手数料 / 広告	

Step 2-1. ユーザーストーリーマッピング

ユーザーが価値を得るまでの流れを左→右で並べ、必須機能を最上段に記入。

[ステップ1] [ステップ2] [ステップ3] [ステップ4] [ステップ5]

必須機能(MVP)

☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____

あったら良い機能 (MVP外)

☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____

将来追加機能

☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____

💡 **コツ**：MVPに含めるのは最上段のみ。「あったら良い」は誘惑が強いので断固として除外。

Step 2-2. MoSCoW優先順位

各機能を Must/Should/Could/Won't に分類します。MVPに含めるのは **Must** のみ。

Must（必須・MVPに必要）	Should（あるべき・MVP後）
☐ ____	☐ ____
☐ ____	☐ ____
☐ ____	☐ ____
☐ ____	☐ ____
Could（あってもよい）	Won't（今回はやらない）
☐ ____	☐ ____
☐ ____	☐ ____
☐ ____	☐ ____

💡 **テスト**：Mustに分類した機能を1つずつ「これを外したら使ってもらえないか？」と問い直す。YESなら本当のMustではない。

Step 3. 開発手法選択チェック

以下に答えて、最適な開発手法を判定。

質問	YES	NO
Q1: コアロジックが複雑な独自アルゴリズムか	☐	☐
Q2: 100万ユーザー以上の負荷が初日から見込まれるか	☐	☐
Q3: 既存サービスとの連携が10以上必要か	☐	☐
Q4: 規制対応（医療/金融）が必須か	☐	☐
Q5: 開発期間2週間以内が必須か	☐	☐

判定: - YESが0個 → **ノーコード（Bubble/FlutterFlow）** を強く推奨 - YESが1-2個 → **ノーコード × AIコーディング（Cursor/Claude Code）** ハイブリッド - YESが3個以上 → **スクラッチ開発** を検討

Step 4. KPI設計シート

開発前に「何を計測するか」「継続/撤退の判断基準」を決めます。

指標カテゴリ	指標名	目標値	撤退ライン
獲得	_____	_____	_____
アクティベーション	_____	_____	_____
リテンション	_____	_____	_____
推奨度（NPS）	_____	_____	_____
ビジネス（収益）	_____	_____	_____

💡 重要：「撤退ライン」を必ず先に決める。後から決めると「もう少し頑張れば…」と判断が遅れる。

Step 5. 意思決定マトリクス

検証結果を以下のマトリクスに当てはめて、次の判断を：

		KPI達成率	
		高	低
ユーザーの 声の 強弱	強	続行	ピボット
	ユーザー	(Persevere)	(Pivot)
	の		
	声	ピボット	撤退
弱		(Pivot)	(Kill)

判定： - 続行 → 本開発フェーズへ - ピボット → 仮説（顧客/課題/ソリューション）を見直して2サイクル目 - 撤退 → 学びを言語化して次のアイデアへ

チェックリストまとめ

公開前の最終チェック：

- ☐ ペルソナを「1人」に絞ったか
 - ☐ ジョブを動詞で言語化したか
 - ☐ リーンキャンバスを埋めたか
 - ☐ MoSCoW分類のMustを5個以下に絞れたか
 - ☐ 開発手法をチームで合意したか
 - ☐ KPIと撤退ラインを開発開始前に決めたか
 - ☐ ユーザーインタビュー対象者を5人以上リストアップしたか
 - ☐ 公開後2週間～1ヶ月の検証期間を確保したか
-

このワークシートの使い方を相談したい方へ

記入したワークシートをもとに、あなたの事業への適用方法を無料でアドバイスしています。

▶ **無料相談:** <https://scoop.llc/mvp-media/consultation/>

他の無料ダウンロード資料 (<https://scoop.llc/mvp-media/download/>) :

- MVP開発 5ステップワークシート
- MVP開発会社 17項目チェックリスト
- MVP開発 費用早見表
- ノーコードツール比較表
- MVP開発 成功事例集30選

© 2026 合同会社Scoop All Rights Reserved. | 本資料の無断転載・再配布はご遠慮ください。

出典・最新情報: <https://scoop.llc/mvp-media/>